

第 1 1 回 大牟田市立学校適正規模・適正配置検討委員会（摘録）

【日 時】 平成30年6月21日（木） 15:00～16:15
 【場 所】 職員会館3階 第2・3会議室
 【出席者】 検討委員会委員 12人 欠席4人
 教育委員会事務局 8人

【次 第】 司会：学校再編推進室主査
 1 開会
 2 議題

（1）第10回大牟田市立学校適正規模・適正配置検討委員会摘録について

発言者	発言内容
委員長	<p>前は、これまで検討してきた内容を文面で整理し、確認を進めた。 答申のスタイル、書き表し方等を具体的に捉えていき、関連資料や一部の書き込みについては、今回整えて提示するとした。 また、計画期間は延長せず、中学校の再編は計画期間内（平成36年度）を目途に行い、小学校の再編は次期計画（37年度以降）に改めて計画することが望ましいということを答申に記載するとした。 さらに、橘中学校の活用、及び既存の近隣校活用の検討については、答申に併記をするということも確認した。 以上が、前回議論の内容であり、本日、配布資料1として個人が特定されないよう配慮した摘録とされている。 この摘録でよろしいか。</p>
全委員	承認

（2）答申案について

委員長	<p>本日の委員会も原則公開で進めたいと思うが、状況次第では会議の途中で公開・非公開の扱いをお諮りすることもある。 このような取り扱いでよろしいか。</p>
全委員	異議なし
委員長	<p>次は議題（2）の「答申案について」だが、本日が答申案の最終確認となる。 本日の確認で修正箇所等があった場合、特に大きな修正でなければ、答申までの間に正・副委員長で責任をもって修正等の対応をしたいが、このような取り扱いでよろしいか。</p>
全委員	異議なし
委員長	<p>それでは、資料2「答申案」の確認に入る。 今回は特に前回の時点で確認できなかった資料や書き込みの箇所等を確認しながら、全体を通して見ていく。</p>

	<p>まず、表紙をめくると全体の目次があるが、ここは極力現計画と同様に六つの大きな項目立てをしている。</p> <p>また、括弧書きの小項目も、ほぼ同様としている。</p> <p>次に1ページの「はじめに」という冒頭の挨拶文。</p> <p>内容は、大牟田市教育委員会から現計画の中間見直しの諮問を受けたこと、現地視察を含め11回の委員会を開催したこと、今後のこの答申の周知、あるいは計画策定に当たっては地域等への丁寧な説明をお願いしたい旨等を書いているがいかがか。</p>
全委員	異議なし
委員長	<p>次に2ページ「答申の要点」。</p> <p>今回の答申内容について、弾力的運用の視点、再編時期や計画期間について、中学校の活用検討等を挙げ、大きく四点ほどに簡潔にまとめているがよろしいか。</p>
全委員	異議なし
委員長	<p>次は3ページ「1 大牟田市立小中学校の現状」。</p> <p>児童生徒数の最新の5月1日現在の数値を基に、小学校は平成36年まで、中学校は平成42年までの推計値を載せている。</p> <p>また、資料編において、15～17ページに資料2、資料3として関連資料も付けている。</p> <p>事務局で何か補足説明等あればお願いします。</p>
事務局	<p>推計は、平成30年度5月1日学級編成基準日調査を基に作成している。</p> <p>今回示している児童生徒数の推移は、前回の適正規模・適正配置検討委員会で示された平成25年度の推計と比べ、全体的な児童生徒数は減少しているものの、傾向としては同じような傾向を示している。</p>
委員長	<p>子ども達の数が今後さらに減少していくことは、現実的には避けられないことで、引き続き学校再編を進めていかざるを得ない厳しい状況にあることが改めて見てとれるのではないかと感じる。</p> <p>この推計等について、質問、意見等があればお願いします。</p>
全委員	異議なし
委員長	<p>4ページ。「2 小中学校の適正規模・適正配置の基本方針」の「(1) 再編基準」では、弾力的運用の視点を入れ込んでいる。</p> <p>「(2) 小中学校の適正規模」では、現計画の学校規模に併せて「中学校において、9～11学級及び19～21学級については、地域の実情等を考慮し、適正規模に準じるものとする」という表示をしている。</p> <p>「(3) 小中学校の適正配置」は、現計画に併せて国の通学時間の考え方に関連して書いているが、「一定の基準が必要と考える」という表記にしている。</p> <p>5ページ「(4) 適正規模・適正配置の手法」では、今までは再編対象校をすべて閉校して新設校を開校するという手法で行ってきたが、今後は校</p>

	<p>区の見直し等による適正規模・適正配置の在り方も出てくることを記載している。</p> <p>6 ページ「3 市立学校の適正規模・適正配置のための学校再編に伴う諸課題についての基本的な考え方」の「(1) 学校の位置」では、教育環境も考慮した学校配置であることを追記。</p> <p>「(2) 学校施設の整備」では、仮校舎の問題や施設整備は可能な限り再編の前に行うことが望ましいことを記載している。</p> <p>なお、6～7 ページ中の「変更無し」は、現計画にある表記のままでよいということを示している。以上の内容でよろしいか。</p>
全委員	異議なし
委員長	<p>次に8 ページ「5 適正規模・適正配置による再編計画」。</p> <p>ここでは、計画期間の捉え方を載せている。</p> <p>当委員会としては、再編時期を見直す、延ばすとしても、今の計画期間は基本的に延長せず、中学校再編を着実に進め、小学校の再編は次期計画で改めて計画するという考え方を提言することにしてはいるが、よろしいか。</p>
全委員	異議なし
委員長	<p>次は、9～10 ページに中学校の施設活用について議論の過程を載せており、現計画案と既存の近隣校活用案の二案を併記するとしている。</p> <p>10 ページでは「検討経過のまとめ」として「今後、市としての実施計画の策定に当たっては、今回の検討委員会の議論経緯等も含め、『現計画案(橘中学校の施設活用)』と『既存の近隣校活用案』の両論について、関係者や地域の意見等を聞いた上で、市全体の行財政運営を勘案し、行政として総合的に判断されたい。」とまとめている。これでよろしいか。</p>
全委員	異議なし
休憩	5 分間
委員長	<p>次の11～12 ページには、先ほどの二案の校区図と関連する説明等を記載している。</p> <p>前回資料に、「再編後の校区図」「再編後の中学校規模(表)」を付け加えており、表の数値は、先ほどの最新の推計値を反映したものとなっている。</p> <p>学校規模等について、事務局から補足説明等はあるか。</p>
事務局	<p>先ほどの児童生徒の推計を基に、今回の二つの案で再編した場合の学校の枠組みで生徒数を置き換えたもの。</p> <p>学校によっては一部横ばい、微増が見られるものの、全体的には子どもの数の減少、学校の小規模化は一定進む傾向があるものと思われる。</p> <p>二つの案において学級数で見た場合、少ないところで9ないし10クラスの規模が見込まれる学校がある一方、逆に一番多いところでは21クラスの規模が見込まれる。</p>
委員長	ただ今の資料、説明等に、質問、意見等があればお願いします。

全委員	異議なし
委員長	最後13ページ「6 その他の小規模校について」。 ここは、前回確認したとおりで「小規模校であっても実際の再編には考慮すべきことを再確認する」という表示にしているがよろしいか。
全委員	異議なし
委員長	以上で最終確認を終えるが、この内容で答申を決定してよろしいか。
全委員	異議なし
委員長	今回の議事のまとめをすると、まず、前回の会議内容と摘録を確認した。 次に、答申案の最終確認を行い、何とか答申できる運びとなった。 なお、大牟田市教育委員会への答申は、正・副委員長で対応することとし、日程は来週の6月27日（水）の午前中を考えているがよろしいか。
全委員	異議なし
委員長	それでは、6月27日（水）午前中に答申することとする。

(3) その他

委員長	最後「その他」として、何かあるか。 事務局から何かあるか。
事務局	改めて、委員の皆様には感謝申し上げます。 なお、来週の答申の日をもって委員としての任期は終了する。
委員長	それでは、以上で本日の審議を終了する。

3 閉会